



入り口では“ようこそ ちろりん村へ”的ゲートと時計台が出迎えてくれます。

広い園庭に目をやると、芝山の緑が夏の太陽にまぶしい。この芝山はなんと、保護者会や職員の皆さんによる手作り。土運びには、十一ントラックが十往復したと言うから、相当な土の量。四月二十三日から土・日の休みを利用して、参加延べ人数六十人の赤土山だ。ヒューム管を固定して、土を盛りセメントと交互にかためていく。芝はりやもちろん、初体験者はかなり。芝はり後は、日よけと根つきを良くするため、おおいをして水やり、仕上りは最高。子供たちはトンネルく

ぐりが大好き。地元の皆さんとの汗と情の心のこもったこの芝山が、くるみの木とともに、大切にされ園のシンボルとして、ずっとずっと子供たちを見守ることだろう。



まごころこもった芝山



新園舎は、木造平屋建てで、三つの保育室、遊戯室、乳児室などがあり、ふんだんに木を使った、木の薫りのする園舎になっています。また、「ちろりん村くるみの木」をテーマに、時計台なりを設置。園舎、倉庫、フェンスまでマルヘンチックなデザインになっています。

環境を乗り切るうえで努力しています。

栄光工業では「取引先への感謝」「地域社会への貢献」「社員の幸福」

を会社の基本理念とし、まほろば祭りのときは駐車場を解放したり、後免町日吉神社の神祭には毎年社員が

「さかな」踊り子隊を編成して練り出

ています。中山さん自ら大のタイ

ガースファンで、野球やバレーボー

ルなどの部員選手にも元気

に分けて、まほろば祭りによる厳しい稽古

を受けないよう、「一業種あたりの充

上げが総売上げの三〇%を超えない

ように管理されています。また、自

社開発型の製品比率を三〇%まで引き上げ、長年の伝統による厳しい稽古

まほろばの里を流れる国分川の南側、栄光工業は恵まれた自然環境の中で、機械工具関係の中堅企業として着実に収穫を挙げています。今回は代表取締役の中山博之さんに会いました。

まずは事業項目は、「農耕用オブラー、

不燃ドア用サン、産業機械、織維機械、防振ゴム用金具など七つの柱

からなっており、景気の影響を直接

受けないよう、「一業種あたりの充

上げが総売上げの三〇%を超えない

ように管理されています。また、自

社開発型の製品比率を三〇%まで引

き上げ、長年の伝統による厳しい稽古

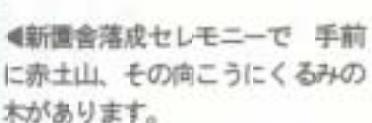
栄光工業



あなたの職場に
おじゃまします。



△旧園舎と晩年のくるみの木。



△新園舎落成セレモニーで 手前 に赤土山、その向こうにくるみの木があります。

いつのころからか、そこにはくるみの木があり、村の人の生活を見守っていました。そのうちに、そばに保育所が建ち、くるみの周りにはいつも子供たちの楽しそうな声が響くようになりました。

秋になるとその実が子供たちを喜ばせます。広げた枝はブランコになります。枝が折れるとみんなでチャンバラ。くるみは保育所のシンボルになりました。

子供たちとの楽しいときを過ごしてきました。寄る年波には勝てません、今から十年ほど前、したい

に張り始め、子供たちや近所の人たちの必死の介護もひなしく流れてしまいました。七年後、惜しまれながらも切られることになりました。みんな悲しんだり、残念がったり。

そんなみんなの気持ちを知つてか、知らずか、切られたくるみのすぐそばで、新しい命が生まれていました。そして今年、ちろりん村として新築移転した保育所と一緒に、二代目のくるみも引っ越し、ここ久里田の地でのびのびと育ついく子供たちと共に、年輪を刻んで行くことでしょう。

ちろりん村とくるみの木 △久里田保育所新園舎を紹介し

久里田保育所は、昭和二十四年、日久里田園舎により設置が議決されました。当時は、園舎も無く、久礼田熊野神社拝殿を間借りしての開園。保育園主事一人、保母二人で保育を行っていました。翌年には第一期卒園児四十七人が卒立ました。

昭和二十七年には、村民の奉仕活動などもあり、待望の園舎が、小学校の北側に完成。園庭の大きくなるみの木は保育所のシンボルでした。



昭和27年の完成以来、子供たちとくるみの木とともに数々の思い出を刻んできた旧園舎も、その歴史に幕を引きました。

久里田保育所は、三十一年の合併で長岡郡後免町へ、そして、三十四年の南国市発足へと移行しますが、変わることなく歴史を積み重ねます。その後、シンボルだったくるみの木が枯れてしまい、二代目のくるみが芽吹きます。

数多くの園児たちを送り出した園舎も老朽化が進み、平成六年には小学校の東側で、新園舎建設に向けて、起工式が行われました。

まほろばの里を流れる国分川の南側、栄光工業は恵まれた自然環境の中で、機械工具関係の中堅企業として着実に収穫を挙げています。今回は代表取締役の中山博之さんに会いました。

まずは事業項目は、「農耕用オブラー、

不燃ドア用サン、産業機械、織維機械、防振ゴム用金具など七つの柱

からなっており、景気の影響を直接

受けないよう、「一業種あたりの充

上げが総売上げの三〇%を超えない

ように管理されています。また、自

社開発型の製品比率を三〇%まで引

き上げ、長年の伝統による厳しい稽古



▶真剣な表情で作業を続ける従業員の皆さん

△日吉神社の夏祭りには毎年社員らによる踊り子隊が参加